

あすを拓く



ゼライス株式会社
中央研究所 商品開発グループ

課長 沼田 徳暁さん
主任 徳田 礼枝さん

ゼリーの原料であるゼラチンを製造しているゼライス株式会社（以下、ゼライス社）。これまで手掛けた商品は、食品分野にとどまらず医療や工業の分野など多岐にわたっている。ゼライス社の商品開発を支える中央研究所の연구원たちはゼラチンの主成分である「コラーゲン」に着目し化粧品や健康食品など新商品の開発に情熱を傾けている。

プロフィール
沼田さん、徳田さんが所属するゼライス中央研究所は、「常に時代の最先端に位置する企業であるべき」という経営理念を体現する重要拠点。2人は、商品開発グループの一員として、コラーゲン由来の機能性成分「トリペプチド」の研究を行い、化粧品や健康食品としての実用化を図っている



サプリメント商品の第一歩となったスティックタイプの「コラーゲン・トリペプチド」（写真左）と、医療・介護向けの「こらあ元氣。」（右）。どちらも、コラーゲンに着目した商品だ



顆粒にしたりサラサラとしたパウダー状にしたりと用途によって加工



本社敷地内にある大きな工場で、ゼラチン原料の製造を行っている

ロングヒットを記録し続けている看板商品のゼラチンパウダー「ゼライス」

ゼラチンの将来性を見据え医療の分野に進出

東北唯一のゼラチン原料メーカーであるゼライス社は、1941年に宮城化学工業所の名で設立。東北帝国大学（現東北大学）と協力し、クジラからのゼラチン製造に成功して以来、食用から工業用まで幅広いニーズに答えてきた。とりわけ、53年に発売した家庭用ゼラチンパウダー「ゼライス」は、今も同社の経営を支える主力商品である。2003年、発売50周年を記念し、社名もゼライス株式会社とした。

同社で商品開発を担当する中央研究所では、ゼラチンが今後幅広い分野で求められると見られ、付加価値の高い商品開発を進めてきた。こうした中で、

1997年に発売したのが低アレルギー性製剤用ゼラチン「フリアラジン」だ。1990年代半ば、予防接種ワクチンに添加されたゼラチンに起因するアレルギー症例が日本で相次ぎ、医療関係者を悩ませていた。そこで中央研究所は、アレルギー性の低い製品の開発に着手。主任の徳田礼枝さんは、「製品の信頼性と安全性をより確実なものにするため、たぐさんのデータを採取しました」と当時を振り返る。こうして生まれたフリアラジンは、厚生省（当時）が所管していた北里研究所（東京都）の試験でもアレルギー性はほとんど確認されなかった。その功績が評価され、ゼライス社は1998年、七十七ビジネス振興財団（仙台市）から県内の産業発展に貢献した企業・団体に贈られる「七十七ビジネス大賞」を受賞した。

低分子コラーゲンの開発に成功し美容製品でもヒットを連発

フリアラジンを世に送り出した中央研究所が次に取り掛かったのは、皮膚からの浸透性が高いコラーゲンの開発だった。スタート当初を「まったくの手探り状態だった」と話す沼田さん。試行錯誤を重ね、豚や魚由来のコラーゲンや高純度のゼラチンから、超低分子コラーゲン「コラーゲン・トリペプチド（CTP）」の生成に成功。飲み物に溶かして摂取できるスティックタイプのCTPの商品化にこぎつけた。

新商品の売り込みに全国の販売代理店を

回ったのは、開発に携わり商品のことを知り尽くした徳田さんだった。「興味を持ってもらうことが一番なので、商品の有効性を裏付ける理論をプレゼンテーションできるように心がけました。理論の実証のために膨大なテストを繰り返し行いました」。そう話す沼田さんの努力が実を結び、スティックタイプのCTPは好調な売れ行きをみせ、後続商品の開発に弾みをつけた。そして満を持して、肌に塗ってコラーゲンを浸透させる美容製品を発売した。評判は口コミで広まり、この頃始めた自社ホームページでの通信販売でも人気商品となった。「美容製品は女性の目が厳しいと言われていますが、おかげさまで7〜8割のお客様にリピート購入していただいています」。そう話す沼田さんも、開発に関わったひとりとして喜びをかみしめている。

購入者からの生の声を活かし商品開発力に磨きをかける

通販事業を通して購入者から生の感想を聞き、顔の見えるものづくりを展開できたことは、ゼライス社にとって新たな強みとなった。牛肉のBSE問題が世の中を騒がせたときには、主要原料を豚コラーゲンから、イメージの良い海洋性コラーゲンへ変えた。また、パッケージのデザインからキャップやポンプの扱いやすさに至るまで、女性が手に取りやすいような商品開発を意識して進めたという。

2008年には、再生医療の分野にも

応用可能なハイグレード医療用ゼラチン「RMゼラチン」の実用化に成功したゼライス。着実に新しい分野へ商品を展開している、同社の開発の最前線に立つ沼田さんは、「多くの方に良いものだと思ってもらいたい商品、これからも作り続けていきたいですね」と意気込みを語る。徳田さんも「自社製品の有効性を最大限に伝えられるようにアピールしていきたいです」と自信に満ちた表情で話した。

※2000年代の初頭に発生した、牛海綿状脳症（BSE）をめぐる問題。畜産業（食肉産業）や外食産業に加え、一般消費者も巻き込んだ社会現象として、「家畜肉を食べるとBSEに感染するのではないか」という不安が広がった。



通信販売で好評のスキンケアアローションやクリーム、ジェル、サプリメント。使いやすさを考慮した工夫が随所にみられる

ゼライス株式会社

1941年創業。家庭用ゼラチンパウダー「ゼライス」をはじめ、食用・医薬用・工業用等各種ゼラチン、コラーゲンペプチド、カラギーナン製剤の製造および販売、自社開発商品の通信販売を行う。本社敷地内には、事務棟と工場施設の他、中央研究所を備えている

■所在地
本社：多賀城市栄4-4-1
TEL 022-361-8821
FAX 022-367-5470
http://www.jellice.com/

